R3. 7. 8　淀川河川事務所

若手職員を中心に洪水対応能力の強化訓練を実施！

～大雨による事象を自ら想定し、実施すべき洪水対応を再確認～

令和3年度の出水期を迎えるにあたり、①洪水初動対応事項の確認、②職員の洪水対応能力の向上を図るため、状況予測型DIG方式による洪水対応訓練を実施しました。

目的

- 若手職員を中心に、計画班、管理班、総務班、現地対策班のグループ事に分かれて、状況予測型ＤＩＧ方式※の訓練を実施。
- 降雨レーダーに基づき発生する状況や事象を各班で考え、その状況に応じて対応すべき行動を確認。

成果

- 事象発生を予測した先手の対応が取り易くなった、他班と洪水対応時の連携が図り易くなった　等

概　要　木津川の水位が大きく上昇することを想定した洪水対応

○日　時：令和３年６月３０日（水）１３：１０～１６：００（訓練は、５０分×２場面、計１００分間）
○場　所：淀川河川事務所
○参加者：若手を主とした職員１８名（計画班６名、管理班６名、総務班２名、現地対策班（木津川）４名）
○方　法：状況予測型DIG方式

訓練概要、訓練状況

■訓練方法

① 逐次与えられる、水位やレーダー雨量等の情報を基に、今後発生する状況や他班の動きを予測します。
② それに対して、参加者全員で話し合い、自班で必要な行動を確認します。
③ これを訓練時間内で繰り返します。
④ 与える情報に対する正解行動をあらかじめチェックリスト化しておき、実施行動をチェックすることで客観的に評価します。

■場面設定

フェーズ1：水防団待機水位に迫る
フェーズ2：水防団待機水位超過
～氾濫危険水位超過

運営計画書に基づく対応検討（計画班）

雨量に基づく施設操作検討（現地対策班）

クロノロ開始時期の検討（総務班）

検討会での訓練結果報告（管理班）

訓練の成果　～特に「初動対応を確実に実施する」ために必要なことへの対応

◆できたこと、得られた効果

- 水位及び雨量情報をもとに、体制更新がなされることを想定し、管理班での増員を判断し、共有した。また、管理班員全員で水位の管理について意識共有ができた。
- 災害対策運営計画書やハンドブックを見ながら、段階ごとに情報共有すべき内容を確認できた。
- レーダー雨量、雨量予測から今後の出水状況を先読みして動くことができた。

◆検討、改善が必要なこと

- 排水機場の操作水位等を集中管理センター等での遠隔監視に頼りすぎていた。出動水位、操作水位を再度確認しておく。
- 第二警戒態勢後にやるべき事項が多いため、一連の動きを事前にかつ網羅的に覚えておく必要がある。
- 水位が急上昇した時など、その要因について考える必要がある。
- 河川特性を理解する必要がある。

◆円滑な対応に必要なこと

- 道路交通状況の把握といった不足事項を確認し、実対応に生かす。
- 水位予測がない場合でも、レーダー雨量等で水位を予測する。
- 上流ダム群の状況把握を意識する。
- 今回の担当レベルの訓練は気軽に意見交換が行えるため、とても有意義である。このレベルの訓練を年1回実施し、基本的な作業を頭に刷り込み、応用力を高める。

※ＤＩＧ訓練：Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字をとって「DIG」。身近な文房具を使い、付箋等で参加者自身が書き込みをすることで、考えを「見える化」し、こうならないためにはどうすればよいかをみんなで考える、頭の防災訓練。

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局　淀川河川事務所　調査課
〒573-1191 枚方市新町2-2-10 TEL 072-843-2861